

えんぽとたんぽの始発駅 里山ビオトープ二俣瀬	会 報 第 46 号	2005年5月23日 里山ビオトープ二俣瀬をつくる会 編集責任者：西原 一誠
---------------------------	-----------------------	--

1. 活動報告（事務局 記）

- 5月1日（日）本日は雨のため作業中止の予定でしたが、協議事項が終わったところ雨も上がり皆様の強い意見で草刈り作業を行ないました。水路の溝掃除、草刈りと22名の活躍ですばらしくきれいになりました。お疲れ様でした。中国新聞社の取材もあって、大々的に掲載されることになりましたので注意して新聞を見てください。（5月3日に掲載されました。）
- 5月18日（水）ビオトープ懇親会お疲れ様でした。お世話を頂いた会員の方お礼を申し上げます。非常にきつい又参考となる話を聞きました。今まで何をして来たのかとも思いました。参加された方はいかがだったでしょうか。
- 5月19日（木）第2回ビオトープ土地借用に関する協議会17時よりふれあいセンターにて
宇部健康福祉センター内厚東川水系森・川・海水環境ネットワークから2名。宇部市環境共生課から2名、当会から会長、副会長、事務局にて協議
- 5月21日（土）農繁期に入って二俣瀬の参加者が少ない中大変お疲れ様でした。午前中は20名の会員により駐車場の草刈りや草原の川のシガラ補修および蓮田のアサザの間引きを行ないました。午後は里山自然観察隊で野鳥観察でした。今日確認できた野鳥は17種です。隊員22名、保護者19名、スタッフ12名で、昭和山からビオトープと厚東川を観察して回りました。

2. 今後の予定（事務局 記）

◎ 見学者

- 5月28日（土）樹木・環境ネットワーク協会、潮村・美濃和・西原会員で対応。
- 5月28日（土）ファミリーサポート見学約60名 4名の会員で対応。
- 6月4日（土）きららネット子どもエコクラブ 美濃和・西原会員で対応
- 6月19日（日）宇部ネイチャークラブ行事としてビオトープを使用？ 案内不要

◎ 行事

- 6月5日（第一日曜日）の活動 作業（草刈り、田植えの準備）
- 6月18日（第三土曜日）の活動 午前：田植え
午後：里山自然観察隊

3. ビオトープ関連（ビオトープ周辺の植物） 美濃和 信孝

5月に咲くツツジ

4月に咲くツツジはコバノミツバツツジで決まり、ですが、5月に咲くツツジは花色も形態も変化が多く、山口に来てからずっと頭を悩ましていました。今回あれこれ自分なりに調べて、ようやく結論的なことを得ました。でも、素人の推論の域を出ないので、よく知っている方にご教授願えたら幸いです。

キシツツジはピンク色のツツジで、その名の通り渓流性でゴツゴツとした岩のある水際が本来の生育場所です。須賀河内川では、童滝の近くに3本の木があって、見事な花を咲かせていました。また、須賀河内川をしばらく行って新幹線にかかる前に左に入る山道がありますが、その旧棚田の畔だったところはキ

シツツジの花盛りでした。童滝の川岸に咲くキシツツジは、いかにもキシツツジという感じでしたが、そうでない場所にも意外と生えているので、湿った場所であれば比較的どこにも生えるツツジのようです。ヤマツツジとの見分け方は、ヤマツツジよりも花が大型で、ガクが粘るとこと、おしべが10本あることです。ガクが粘っている理由は、花びらを食べる昆虫をゴキブリホイホイのようにくっ付けて、花びらまで行かせないためだといえます。ヤマツツジのガクは粘らず、おしべは5本です。ヤマツツジがどちらかというと匍匐枝のような感じで横に枝を伸ばすのに対し、キシツツジの枝は毛のある太い枝を直上させ、その頂点に3〜5個の花を付けます。キシツツジは、岡山県より西側の中国地方、四国、九州の一部（国東半島）に分布します。中国・四国地方を代表するツツジといってもよいでしょう。

ヤマツツジは、基本的には花色は朱色のはずですが、キシツツジと同じようなピンク色の花もあります。このことでこの3年間ずいぶん悩んでいたのですが、このピンク色のヤマツツジは、広島大学の研究者により、ヒメヤマツツジという名前が付いた、ということを知りました。ヒメヤマツツジは広島県と山口県だけに分布します。ピンクの花でも、ガクが粘らず、おしべの数が5本だったら、それはヒメヤマツツジです。ツツジは分類が大変難しい種類で、いろいろ交雑もするがあるので、ヤマツツジの仲間では朱色だったらヤマツツジ、ピンク色だったらヒメヤマツツジということに今はとりあえずしておきましょう。ヤマツツジはどちらかというと乾燥した場所が好みですから、道沿いの斜面に群生しているのを見ることができます。刈り込みにも強くて、斜面のカバープランツのような状態になっても花を咲かせていたりします。ヤマツツジは、照葉樹林のような暗い森には入り込まないのですが、明るい落葉樹林では林床を埋め尽くすように咲く場合があって、それは見事です。5月の連休に栃木の里山を訪れる機会があったのですが、コナラ林の下に見渡す限りヤマツツジが咲き乱れている場所がありました。関東のヤマツツジは花色は朱色オンリーなので、変に頭を悩ますこともなく、素直に感動できました。



キシツツジ (ツツジ科)



ヤマツツジ (ツツジ科)

4. ビオトープ関連 (会員の声) 「飛んでいる野鳥を眺めて」 (林 弘之 記)

私は野鳥に詳しい訳でないが、あるきっかけで興味を持って眺めるようになった。それはアオサギのしっぽの長さであった。飛んでいるほとんどの野鳥は、翼を中心にして頭部より尻尾の方が長く見えるが、この鳥は異常に長く見えた。よく観察をすると長い足先をつま先で伸ばしていたので、しっぽよりも足のほうが長く出ていたのである。しかも長い首は頭の下に丸めているので、あごの下のこぶのように見える。だから余計にそう見えたのであった。ゴイサギもシラサギも同様な格好で飛んでいる。しかしツルは長い首を伸ばしたまま飛んでいるので頭部が長く感じる。同じ長い首をしているサギとツルの違いはなぜか知らぬが、ツルは飛行中首が痛くならないかと気にかかる。

そこで頭部が短い鳥は飛行中足をどうしているかを観察してみた。小さい鳥はみえにくいのでカラスにしたが、何回見てもこれだという決定的な瞬間がなかった。しかし指をグーのように丸め膝から折り曲げているようだ。長足のものはつま先まで後ろにまっすぐ伸ばし、短足のものは指を丸めて膝から曲げていると言うのが私流結論。(間違っていれば乞ご教授)

ところで、少年時代に編隊飛行する鳥はガンだと聞いていた。今も渡来するかどうかは知らないが、毎日70羽位の頭部が長いカワウが飛んでいる。朝はねぐらと聞いた阿知須万年池から、えさ場のダム上流方面に行き、帰りはエサ次第の三三五五の様である。弓になり、棹になり、くの字などの編隊に遅れた鳥が追いつくとサッと中に入れてやり等間隔を保ちながら飛ぶ。途中ホバリング(空中停止)を何回か見たが、隊長らしき鳥を前にして全員が中央に集まって練習する。20~30羽の集団から1~2羽まである。

遅れたのか一羽だけが蛇行もせず、一目散に飛ぶ姿を見るとガンバレと声をかけたくなる。ちゃっかり組みもいる。朝上流のエサ場に行かず、家の前の厚東川に降りてエサを食べて帰るのもいる。腹を立てたか忘れ物か知らぬが、突然回れ右をして帰るのもいる。カワウは数回旋回して着水するが、おなじ頭部が長いカモは一直線に着水する。

長くなったがとっておきの話?をひとつ

5月になってビオトープに見馴れぬ鳥が一羽飛来。毎日散歩する近所の人も気付いていたと言う。私が適当にシギではないかと言うと家の図鑑で調べたらコウノトリではないかと言う。コウノトリが宇部のビオトープにいたら大変なニュースになり、全国からの見物客で田植えも出来ずと心配するが、それは老シラサギかと思いつつ参考までに姿をまとめます。

- ① シラサギのように全身真っ白。②首は長いが足も長いと思う。③サギは地上では立っても首を長くしているが、その鳥は立っても首をすぼめている。しかも頭が背中より低くなっているので、背中にコブがあるように見える。④サギは立っているとき羽根のすそをきれいに閉じているが、この鳥はミノを着ているようにすそが広がっている。

観測が不十分と思い写真に写したが、遠くからなのでどううつっているのかプリントしてないので定かでない。「なあ〜んか、サギじゃないか。」と言われそうなのでペンをおきます。名前がわかる人は乞ご一報をお願いします。

次回は 車地の女性 会員にリレーします。宜しく

5. 来訪者の声 (東屋のノートより一部抜粋)

—4月16日 今日のはてんぷらを食べました!!私のお気に入りタンポポです。あまくておいしかったなあ
あ〜 家で作ってみます。By ユミ

— 不明 楽しかったです。みんなうれしそうですね ようこ

—4月29日 自然がだんだん少なくなってきた大変ですね! 人間により地球からどうしょくぶつがいなくなってきました。永久に地球が自然が続きますように・・・ビオトープの管理を宜しく。

無名

—5月3日 初めて来ました。とてもいい所。夏ごろに又訪れようと思う。

徹哉と励桜

—5月5日 大きなへびが水の中にいてびっくりしました！！メダカもいっぱいかわいかったです。

K・S

—5月9日 さわやかな風の中、ビオトープ周辺を歩きました。川のせせらぎとともにホオジロ、キビタキのさえずりに耳を傾けました。下池(湿地帯)にはヤマカガシが居座っているようです。ニガナ、ハナニガナ、オオジシバリが春を謳歌しています。タツナミソウもヒメハギもまだ見られます。本日の収穫はこの数日名称不明だった、オオニワセキショウが判ったのと、ソクシンランを数株発見したことでした

M・T

—5月15日 とてもたのしかったです

YUUKA

—5月15日 ドジョウが見たかったです

HARUKA

—5月16日 この項M・Tさんの寄稿は来月回しとします、あしからず。

—5月21日 いいところです。50年前の見馴れた風景を思い出し懐かしい心持になり、ご苦労されました皆様に感謝します。

—5月22日 退会して初めて来ました。始めてみた水中にある黄色い花、幼児のように見入ったかえるの卵、忙しい毎日、嫌な事の連続、少しの時間でしたが、落ち着きを取り戻せました。なんだか涙が出てきました。会員の方ご苦労様有難う。
(元会員と思われます)

6. 会よりの連絡事項

1) 退会者のお知らせ 5月21日現在

中本 昇さん ご逝去

渡辺稔人さん ご多忙につき

矢野洋司さん 市環境部から転任

重村和成さん 広島から転任で大阪在住

長い間の会発展のためご尽力をいただきましたこと御礼を申し上げます。

2) 新規会員のご紹介

西村靖子さん 山口市在住

山崎正熙さん 北小羽山在住

平田 崇さん 山陽小野田市在住

岡村智紀さん 地元田の小野在住

会の活動にご尽力くださるようお願いいたします。

7. 編集後記

18日(水)の山口大学でのシンポジウム(地球環境時代の流域管理・まちづくり・温暖化防止)の後で、講師の山脇先生と長谷川先生をお迎えしてビオトープで懇親会を行った。ビオトープを考える会の長谷川明子会長は湿地のキショウブを見られて、外来種を植栽しているようでは生態系的にどうしたいのかコンセプトが明確ではないと話された。これは周りの里山を調査して植栽したのであるが、いきなり見れば違和感を感じるだろう。ハギと思って植栽し、後でコマツナギと分って全部引き抜いたこともあった。外来種と在来種の区別は難しく、ビオトープ内の雑草も外来種の方が多いと思う。明らかに侵食して植物相が偏る場合には、積極的に排除しなければならないと思うが、ここを二侯瀬の在来種のみにするには非常に難しいと思う。しかし、生態系からみれば在来種が多い方が良いわけで、美濃和さんが言われているエコアップを会員同士がもっと議論して進めて行くことが今後の課題だと思っています。皆様のご協力をお願いいたします。

(西原 一誠 記)